

# 日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第96号 2016年12月1日

資料見聞

## 坂本龍馬・溝淵広之丞合作下関戦図

泰平の世・江戸時代。現代の若者同様に戦争を知らない世代・坂本龍馬が初めて経験した戦が幕府軍と長州軍との間に勃発した下関海戦です。

慶応2年（1866）6月、幕府は第二次長州征伐に着手します。これを迎え撃つ長州軍は西洋式の軍隊によつ



坂本龍馬・溝淵広之丞合作下関戦図（秦親公氏寄贈）

て、数々の勝利を挙げました。その中のひとつ下関海戦に龍馬は、長州軍としてユニオン号（乙丑丸）に乗船し、参戦しました。

のちに龍馬は、何事も人から聞く話と実体験は違うけれども、戦争はとりわけて違っている（「惣じて咄しと実ハ相違すれども軍ハベツしてこと

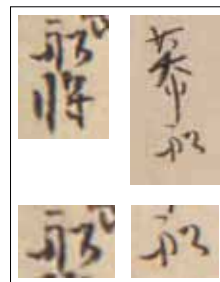
なり候」と感想を述べています。生まれて初めて経験した、その強烈な情景が頭に焼き付いて離れなかったのか、その様子を描いた絵図が2点残されています。その内の1点が、今回紹介する海戦図です。

左端には、「下ノ関戦図 溝淵広之丞坂本龍馬ト共ニ之ヲ描ク」とあり合作だとわかります。溝淵は土佐出身で、江戸・千葉定吉道場でも龍馬と同門の友人でした。龍馬とは違う船ではありましたが、溝淵も下関海戦に参加していたため、「合作」したと考えられます。

この資料は、当館を含め、数々の展覧会で、これまでも紹介されてきました。しかし、どのように「合作」なのかについてはあまり

触れられてきませんでした。一方が指示をして、一方が描いた場合も合作と称して間違いありません。そこで、筆跡からその真相に迫ってみたいと思います。

例えば、海戦図には、「船」（船・航）の文字がたくさん出てきます。



右の画像をご覧ください。図中に登場する「船（船）」の字を拡大してみました。見比べてみると、部首の「舟」や、つくりの「公」の筆跡が明らかに異なっています。つまり、この海戦図は少なくとも2名以上の手によって描かれたことは間違いありません。

そこで気になるのが、どちらが龍馬の手によるものなのかということですが、あえて、ここではそのような野暮なことには触れません。

企画展「幕末の土佐―書跡にみる人物群像―」では、今回紹介した海戦図の他にも龍馬の直筆による資料が出品されます。いま本紙を読んでいるあなたの目で、ほかの龍馬の筆跡をじっくりご覧いただき、どちらが龍馬の手によるものなのか、つきとめてみてください。

（石畑）

# おうか 人生を謳歌する人びとの書



壬生水石  
「土佐交遊諸家像」より

時代を問わず、多くの人びとは、人生の重大な局面を迎えたとき、何かを遺そうとします。江戸時代の人びとのなかにも、自らの生きた「証」を「書く」「記す」という行為によって遺そうとする意識がありました。漢詩を作り和歌を詠むというかたちで表現されることが多かったのですが、当然こうした創作には一定の教養を伴うため、はじめ

## 書

跡という馴染みのない言葉がもしれません。今回の展覧会では、単純に幕末頃に活躍した人びとが書き遺したものの総称として使用しています。



## 企画展 幕末の土佐 — 書跡にみる人物群像 — へのご案内

2017年1月29日(日)～5月10日(水)

めは武士や僧侶など一部の階層に限られました。しかし、化政期(1804～1830)には民衆にも広がりをもせ、土佐でも高知城下はもちろん、各地に名の知れた文人墨客が現れました。



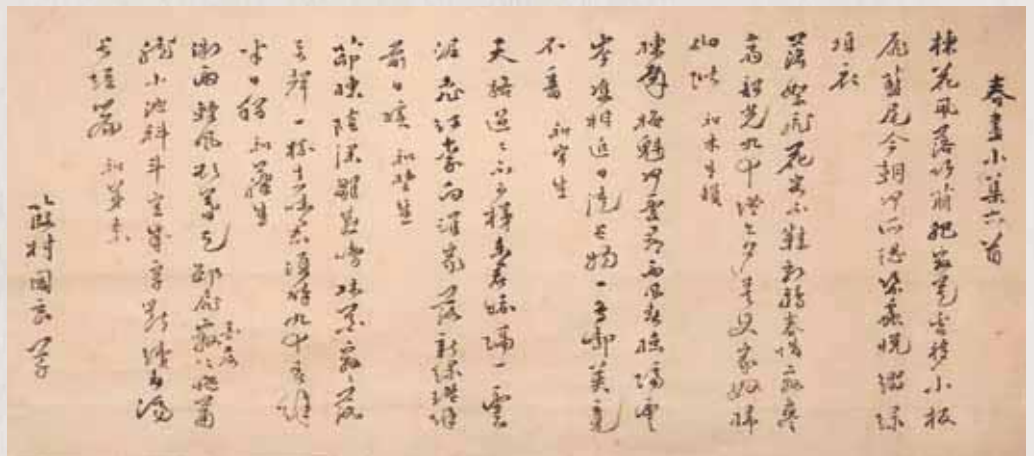
漢詩人 岡它山

文人墨客？  
そりゃわしらのことよ



僧 志静

詩文や書画に  
親しむ者を  
指すのじゃ



岡它山漢詩「春尽小集六首」 秦親公氏コレクション 〈行く春を惜しみ仲間と季節の移ろいを詠む〉



志静書「眉寿無有害」  
秦親公氏コレクション  
〈禅語を用い健康長寿への願いを記す〉

さすがは  
它山先生、  
繊細な詩を  
詠むのう。

志静老の書も  
魅力的じゃ。  
わしもかくありたい。



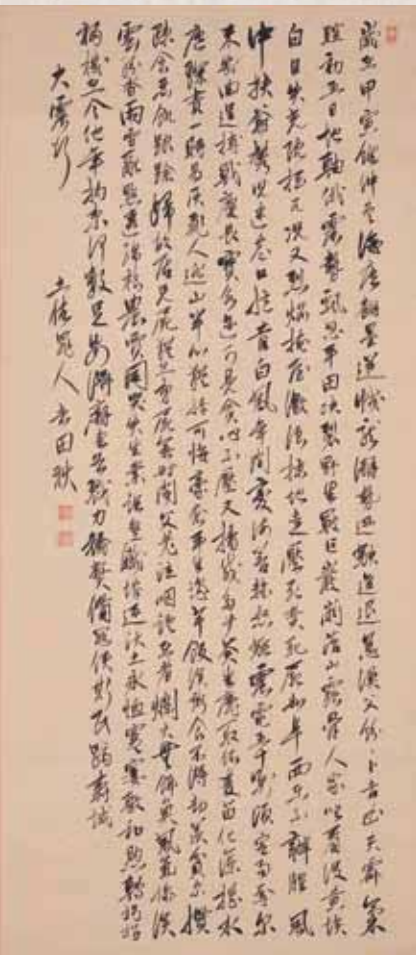
## 文

人墨客の多くは、藩の下級役人だったり、学者(国学・陽明学・漢文学・万葉学等)や僧侶といった人びとで、身分に関係なく、江戸や京・大坂の優れた人物に師事し、自らが得た知識を身の回りの人びとに伝授しようとしていました。

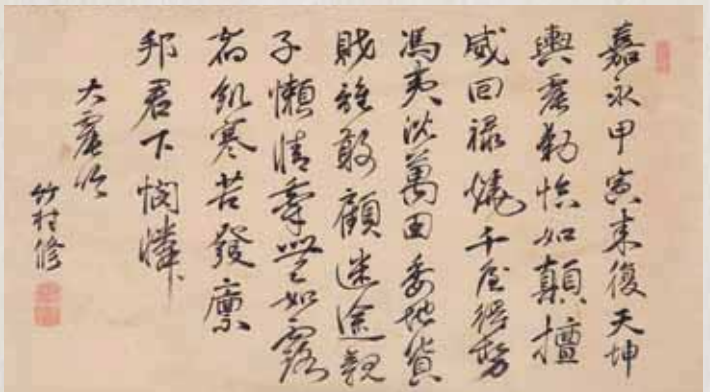


## 自然の猛威に触れ、筆をとる

**嘉** 永7年（1854）11月5日、大地震が土佐を襲いました。当時江戸での不始末により謹慎中だった元土佐藩仕置役・吉田正秋（東洋）は、直後に作った漢詩のなかで、「やるべきことは分かっているのに何もできない…」と身上を嘆いています。一方の竹村東野は藩士（足輕）であり漢学者でした。ありのままの郷里の惨状を漢詩に込め、後世の人びとへの警告としたようです。二人とも江戸の安積良齋の弟子。世情を冷静に分析し、実行する能力がありました。後に二人の私塾からは多くの俊才が現れます。



※吉田東洋漢詩「大震行」  
（自嘲し禁足の身を「土佐罪人」と記す）



※竹村東野七言律詩「大震吟」 秦親公氏コレクション  
（天災は再びやってきたと鋭く書き記す）

## 志士が遺した様々な想い



※吉村虎太郎書状 仙頭勘右衛門宛 秦親公氏コレクション  
（まるで浄瑠璃本のような独特の字体）

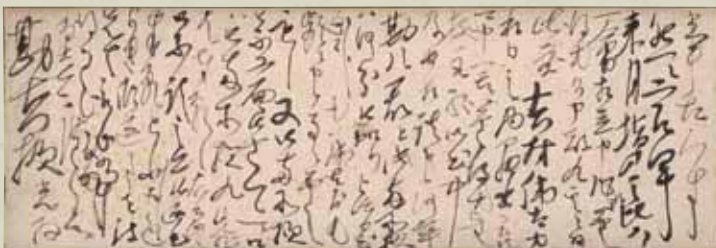
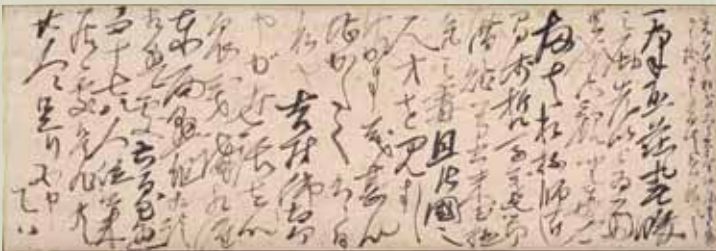


間崎哲馬戯書 高知県文教協会蔵  
（人となりを現す豪快な筆跡）

**間** 崎哲馬（浪浪）は郷士の息子でした。若くして安積良齋の弟子となり、帰国した後、高知城下において私塾を開き、吉村虎太郎や中岡慎太郎たちを導きました。

極端に右上がりの筆跡は面白い。個性的な青年じゃ。

こっちは若さ故の勢いを感ずる。二人とも庄屋で間崎殿の弟子だそう。



※中岡慎太郎書状（仙頭） 勘右衛門宛 秦親公氏コレクション  
（師の困窮を思いやる慎太郎24才頃の手紙）



# 華麗なる余技の世界



※武市瑞山「懸崖紅菊図」秦親公氏コレクション



武市瑞山画帳



画帳より「鶴」と「亀」



※武市瑞山扇面画

**江** 戸で剣術修行中、土佐出身の尊王攘夷派と意気投合した武市半平太(瑞山)は土佐勤王党を結成します。「挙藩勤王」を目指して激しく政治運動を展開した彼らでしたが、暇を見つけては国元の家族に手紙を書き、時には戯れに墨画を描くこともありました。限られた空間にその時どきの「思い」をとどめようとした作品には、ある種の洒落っ気や、儂さのようなものが感じられます。

本展では、こうした美術的な資料も併せて展示し、様々な立場にあった人びとの心の動きを「書跡」や「作品」のなかに見ていきます。(野本)

※印のあるものはすべて当館初公開です。

武市殿は美人画も得意だとか。

忙しいのによく描く暇があったものよ。

ちなみにわしは黒田虎閑、隣は徳弘石門殿じゃ。展示室で待ってあるぞよ。



黒田虎閑…漢詩人  
徳弘保孝(石門)…画家

## 地震から寺宝を守るために

那須 望

熊本地震の発生から半年が経過しました。徐々に復興が進んでいるとはいえ、ブルーシートがかけられた家々や、いまだ避難生活を余儀なくされている方々を報道で知るたびに、改めてその被害の大きさを思い知らされます。

近頃になって、この地震による文化財の被害状況の報告が耳に入るようになってきました。我々の目に焼き付いて離れないあの痛ましい熊本城の姿が教えてくれるように、今回の地震では建造物に大きな被害が出たということがひとつの特徴といえるようです。

東日本大震災では、多くの動産資料が津波による被害を受けましたので、塩害や水や泥などによる汚損についてのノウハウは蓄積されていますが、今回の被災文化財にはあまり活かす場がないかもしれません。現在、様々な機関が連携し建造物を中心とした被災文化財の修復に向けて動き出していますが、完了までには莫大な費用と期間を要することが指摘されています。

このように、一言で地震といっても被災の種類（揺れ、津波、土砂など）、規模によって文化財の被害の状況は違ってきますし、地域の文化財ネットワークや大学等研究機関の有無によって、求めら

れるレスキューの体制や文化財修復のスピードも変わってくるのです。

いずれにしても、発生の予知ができない以上、いま私たちにできることは防災しかありません。もちろん最も重要なのは、命を守るための防災ですが、文化財を守るための防災への意識も高まってきているように感じています。

最近、寺院調査に伺った際に、寺宝、特に仏像の耐震方法についてご相談を受ける機会が増えました。仏像は、様々な形をしています。座っているもの、立っているもの、手のひらに乗るくらいの小さなものから、見上げる高さのものまで。また、素材も木、石、粘土、金属など様々です。立像は当然倒れる危険がありますし、小さな像であっても地震の混乱で紛失してしまうかもしれません。必ず大丈夫と言える対策はありませんから、ご相談をいただく度に、ご住職様方と頭をひねっています。はつきり言って、大変難しい課題です。これまで何百年という時間、信仰の力が守り継いできた寺宝を必ず次世代にも繋いでいくため、仏像ごとに最善の防災を模索する日々が続いています。

## 弥生時代の重要な考古資料

### 四万十町出土の銅矛5口が田井様より寄贈されました 岡本・曾我



展示中の銅矛5口

寄託を受けた、複製品を製作させていただきます。たりし

ていました。

今回、田井宣男様よりご寄贈いただいた銅矛5口もその一つです。田井様には、平成2年からこの銅矛をご寄託いただき、常設展の弥生時代のコーナーにおいて四半世紀にわたり展示をいたしました。ところが思いがけず、平成28年4月12日付で高知県に銅矛5口をご寄贈いただくことになりました。そのため高知県知事より田井様に感謝状が贈呈されることになり、当館長が伝達させていただきました。

この銅矛は、昭和10年（1935）8月5日午前8時ころ高岡郡松葉川村作屋地区（現四万十町）への水路工事の際に溝を開墾中、西ノ川で武田虎次氏が発見



田井宣男様（中央）へ高知県知事感謝状を伝達  
2016年6月14日

したものです。この地域では、水路を開墾中に青銅器が発見される例が多いのです。発見当時、土佐・郷土史の父と呼ばれる寺石正路に銅矛の研究を依頼しています。（『高知新聞』昭和10年8月11日）その後、昭和45年に日本考古学協会青銅部会の岡本健児氏により発見地の学術調査がなされました。この遺跡は、高知県で初めて学術調査された銅矛埋納遺跡で、銅矛は土佐の考古学史上重要な遺物となりました。

長年にわたり文化財を個人で保護されたことに敬意を表しますとともに、今回ご寄贈いただきましたご厚意に感謝申し上げます。



# 戦後資料の活用―コーナー展 「終戦と復興」を終えて―

石畑 匡基

昨年、文部科学省は高等学校において近現代史を必修とする次期学習指導要領の改正案を提示しました。これは、他の時代に比べ、近現代史の知識・理解の定着率が低いことを問題視していることだそうです。

このように、教育界で近現代史の重要性が高まる中、生涯学習施設としての側面を持つ博物館では必ずしも近現代史重視の方向には向かっていないのが現状です。当館においても、歴史分野の守備範囲は基本的に戦時中までの資料といえ、戦後以降の歴史資料（特に文書資料）は収集してなかなか展示する機会がありませんでした。

戦後から70年以上が経ち、昭和を知る世代も段々と減少してきた現在。後



コーナー展展示風景

世に歴史を伝えるために資料を残していくしかありません。特に、公文書館施設のない

高知県では資料の保存を博物館が主体となつて取り組むことが期待されています。

とはいえ、博物館の学芸員数も収蔵スペースも限界があり、特に戦後資料に関しては新規収集が大変厳しい状況にあります。このような現状を危ぶんでか、今年「高知戦争資料保存ネットワーク」が結成されるなど、同様の危機意識は民間にも広がっています（詳細は楠瀬慶太「高知戦争資料保存ネットワーク」の設立について（『地方史研究』383、2016年）を参照）。

右のような民間団体とも協力しつつ、県内で所在把握された戦中・戦後資料を展示し、皆様に資料の大切さを伝えることが当館を含めた公立博物館の責務といえるでしょう。その将来を見据え、「先ず隗より始めよ」の故事にあるように、先ず自館の資料を展示することから始めなければ。そのため、開催したのがコーナー展「終戦と復興」で、ほとんどが初公開資料でした。今後も戦中・戦後資料を積極的に展示公開していくことで、資料を後世に残す大切さをご理解いただくお役に立てたら本望に思います。

# コーナー展「干支の玩具 酉」の見どころ

中村 淳子

何かを収集し、数百点、数千点というコレクションを形成するには長い時間がかかります。収集家は、そのためにどれほどの情熱を傾けて愛情をそそぐことでしょう。高知県にはかつて郷土玩具の傑出した収集家がふたりいて、そのコレクションを当館が収蔵しています。ひとりは城田政治さんで、その

コレクションには茶運び人形や十市土人形など一級の資料が入っています。もうひとり山崎茂さんで、郷土玩具なら何でも集める懐の深さで1万点を越すコレクションを築きました。

山崎さんのコレクションは干支の玩具が多いため、当館では受贈してから毎年、干支の玩具を展示しています。

7年目の今回は、酉年にちなむ鶏の玩具を約200点展示し、その個性豊かな表情をご紹介します。なかでも高知県の鶏玩具は充実しており、



全国各地の鶏の郷土玩具  
山崎茂氏寄贈郷土玩具コレクションより

来年の年賀切手になった岡山県の倉敷張り子をはじめ、年賀切手の鶏玩具が揃っているのも見どころです。山崎さんの鶏玩具を中心に、今回は城田さんのものも展示して、ふたりの収集家魂の結晶をご覧に入れようと思います。新春は歴史館でかわいい鶏の玩具をお楽しみください。

丸つと愛らしい香泉人形やスラツとした木彫り人形など尾長鶏の玩具が多種です。一方、太鼓に乗る姿が天下泰平を示すという中国の伝説に由来する諫鼓鶏は、福岡県の津屋崎人形や滋賀県の小幡人形など各地で作られているので、作者や産地の特色が際立っています。また、鶏玩具には他の干支玩具と同様に、折りや願いがこめられたものが見られます。例えば子供の夜泣き封じのまじないに名古屋市の三宝荒神へ奉納されてきた雌雄の鶏の土人形。他の鶏玩具にも雌と雄、親鶏と雛の組み合わせがあり、ほっこりします。

## もとかが君大活躍

第3回ご当地キャラ祭りin須崎 平成28年9月10日(土)・11日(日)

全国のご当地キャラクターが集まった「ご当地キャラ祭りin須崎」に若武者もとかが君も参加しました。県内外の人気キャラクターが約110体も登場するとあって、来場者は2日間でも9万5千人と大賑わい。もとかが君もおともだちと写真を撮ったり、PRステージをこなしたりと、すっかり当館を宣伝してくれました。キャラクターたちの元気とお客様の熱気で、まだまだ暑さ全開の9月でした。

こうちまんがフェスティバル 平成28年10月29日(土)・30日(日)

まんが王国・土佐を代表するお祭り「こうちまんがフェスティバル」、通称「まんさい」。高知市文化プラザかるぽーとで開催されたこのイベントには県内のご当地キャラクター「じもきやら」が大集合ということ、当館代表として、もとかが君が参加しました。会場内では名刺を配りながら広報活動に勤しみ、ステージイベント「じもきやらステージ」ではたくさんのお客様から「もとかが君コール」をいただきました。もとかが君の人気も上がってきたかな？と手応えを感じ、嬉しい10月でした。  
(総務事業課)

## ついに登場!

### 「犬形土製品」キーホルダー

特別展「発掘された日本列島2016」の開催に合わせ、

平成2年に岡豊城跡から出土した「犬形土製品」をモチーフにしたキーホルダーを発売しました。この「犬形土製品」は、調査の結果、戦国時代のものとのこと。長宗我部氏ゆかりの人が触ったものかもしれません。あえて出土したそのままの形を生かし、右耳や左前足は欠けたままで、「岡豊城跡で出土した」他には無いものです。実物も4.6cmと小さく、目立たない存在かもしれませんが、そのかわいい姿をミュージアムショップでも、展示室でも、是非探してみてください。(総務事業課)



# れきみんニュース

## 第5回 旧大栃高校民俗資料一般公開

おおじち

平成28年10月9・10日の2日間、旧大栃高校(香美市物部町)に保管している民俗資料を一般に公開しました。今年は、昨年的一般公開をきっかけに発足した「古物好きの会」や物部のお隣・徳島県那賀町の方々、香美市にお住まいの方々のご協力で、脱穀や石臼、木馬、縄ない体験を実施し、いずれも好評でした。公開調査ではワラや樹木の利用について学びました。高知工科大学の物部の空撮映像も注目されました。(梅野)



会場をめぐるガイドツアー



石臼体験



木馬体験



オイコを実演する  
松本善夫さん、弘一さん兄弟



カナバシ(千歯扱き)で  
脱穀実演



ワラ縄を見せながら  
説明する萩野雄三さん



コーナー展

おひなさま

2月4日(土)～  
3月14日(火)



三次人形(広島県)

郷土玩具のおひなさまや大正・昭和時代の内裏雛、段飾り雛などを展示します。

- ミュージアムトーク 2月25日(土) 14:00～14:30
- 担当学芸員 予約不要・要観覧券

新刊紹介

図録

文化庁編 発掘された日本列島2016  
新発見考古速報

歴史館受付 書店でも販売中  
B5版 72頁 1,994円(送料レターパックライト360円)

研究紀要

高知県立歴史民俗資料館研究紀要第20号  
A4版 74頁 700円(送料300円)

【論文】

「民具収集についての走り書きの覚書  
—「高知県」という広がりの中で—」…香月洋一郎

【研究ノート】

「南国市久礼田熊野神社の銅戈」……………森田尚宏  
「熊野神社の銅戈をめぐる」……………岡本桂典  
「高知県南国市久礼田熊野神社所蔵銅戈のX線  
透過撮影および蛍光X線分析について」…魚島純一  
「企画展「長宗我部遺臣それぞれの選択」の構成  
内容を振り返って」……………野本 亮

【史料紹介】

「竹心遺書」について……………野本 亮

年末年始の休館日のお知らせ

2016年12月27日(火)～2017年1月1日(日)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第96号  
平成28年12月1日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088(862)2211  
FAX 088(862)2110  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり  
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円  
(団体20人以上) 360円  
(特別展・企画展)通常展込 510円  
(団体20人以上) 410円  
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)  
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展

幕末の土佐

—書跡にみる人物群像—

2017年 1月29日(日)  
～5月10日(水)



吉田東洋詩書

封建社会の限界・矛盾を感じ、我が国を近代国家へ脱皮させるために立ち上がった人びとを「草莽の志士」と呼びます。彼らの多くは身分の低下級武士や庄屋でしたが、当代一流の思想・学術・文芸の師について学んでおり、高い教養を身に付けていました。命がけで国事に奔走していた彼らは、常に死を意識していたため、家族や同志に頻りに手紙を書き、時には和歌を詠み、戯れに水墨画を描くこともありました。

「志国高知 幕末維新博」関連企画第1弾となる本展では、こうした志士たちの遺した「書跡」を中心に、幕末をエネルギーに生き抜いた人びとの人間性や「志」の源流を探ります。

※3月4日から後期展として展示替を行います。

- 連続講座 14:00～16:00 ●要予約
- 2017年3月20日(祝・月)「筆跡からみる龍馬」  
講師：高知県立坂本龍馬記念館学芸員 三浦夏樹氏
- 2017年3月25日(土)「筆跡からみる慎太郎」  
講師：中岡慎太郎館学芸員 豊田満広氏
- ミュージアムトーク「書跡にみる人物群像の見所」  
●担当学芸員・予約不要 ※講座・ミュージアムトーク共に観覧券要  
3月19日(日)、26日(日) 14:00～14:30

コーナー展

とりの  
えと  
千支の玩具 酉

2016年 2017年  
12月24日(土)～1月31日(火)

酉にちなむ鶏の郷土玩具展です。山崎茂さんのコレクションを中心に約200点紹介します。

大津絵十二支土鈴 酉  
(滋賀県)



土佐和紙漆喰張り子  
チャボ(高知県)

- ミュージアムトーク 1月2日(月) 14:00～14:30  
●担当学芸員・予約不要・要観覧券
- ワクワクワーク「土佐和紙漆喰張り子とりの絵付け」  
1月21日(土) 14:00～15:30 講師：草流舎 田村多美氏  
●要予約(定員30名)・参加費1,500円

コーナー展

昔のくらしの道具

2017年  
1月2日(月)～3月5日(日)

ハガマ、おひつ、アンカ、炭火アイロン、洗濯板…、昭和の香りのする民具たちです。小学校の昔のくらしの授業にもピッタリ。

